

令和元年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書(自治体 follow up 調査班)

山口県における肝炎ウイルス検査の実態と陽性者フォローアップへの取り組み

研究分担者：日高 勲 山口大学医学部附属病院 肝疾患センター
研究協力者：野村 洋子 山口県 健康増進課

研究要旨：わが国には約 350 万人の肝炎ウイルスキャリアが存在すると推定されており、感染を認識していない方への検査受検啓発、適切な受診に至っていない患者への受診勧奨が課題とされている。山口県では行政と拠点病院、肝炎医療コーディネーターが一体となって啓発活動を継続することにより、肝炎ウイルス無料検査の受検数は増加し、継続的な啓発の有用性を示してきた。2017 年以降、肝炎ウイルス無料検査の受検者数は減少傾向であるが、陽性率も減少しており、一定の住民が受検をした結果と考える。一方で、検査陽性者に対してはフォローアップ同意を取得しているにもかかわらず、現状調査の結果、十分なフォローアップができていないことが判明した。2019 年に受診票の改定を行い、陽性者の受診状況の把握が行えるようにした。結果、約 7 割の検査陽性者が専門医受診へつながる予定であることが判明した。

A. 研究目的

わが国には約 350 万人の肝炎ウイルスキャリア（B型肝炎、C型肝炎）がいてと推定され（厚生労働省）、ウイルス肝炎は国民病であると記述されている（肝炎対策基本法前文）。肝炎ウイルス陽性者の中には、いまだに自身の感染に気付いていない方や感染を知っていても医療機関を受診していない患者が多く存在すると推測されており、現在、国を挙げて肝炎検査受検、受診促進の取り組みが行われている。

山口県では、拠点病院と行政が連携して受検啓発活動を行ってきた。さらに肝炎医療コーディネーターが積極的に啓発活動に参画して活動しており、肝炎ウイルス無料検査の受検者数は増加した。現在の受検状況、検査陽性者の推移を引き続き検証する。

また、肝炎ウイルス検査陽性者が適切に医療機関を受診しているかどうかは十分に把握できていない状況がある。山口県では受検時にフォローアップ同意を取得しているが、その後のフォローアップの状況や受診状況の確認は十分に行えていないのが現状である。県と協議し、受診票の改定を行

い、効率的なフォローアップ体制の確立を検討する。

B. 研究方法

①受検啓発の効果検証

山口県が実施している緊急肝炎ウイルス検査事業および保健所無料肝炎検査（特定感染症事業肝炎ウイルス無料検査）における検査受検数の推移と陽性率の推移を調査する。

②受診状況の実態と効率的なフォローアップ方法の確立

山口県では以前より、特定感染症事業による肝炎ウイルス無料検査受検時にフォローアップ同意を取得しており、同意取得率を調査する。2018 年に同意取得後のフォローアップの実態を県健康福祉センター（県内 8 施設）に聞き取り調査を行い、2019 年に効率的なフォローアップ体制の構築、山口県と協議し実施する。2019 年 4 月に受検票を改定し、陽性者の受診紹介先を把握することとした。さらに県担当者より健康福祉センター担当者に陽性者のリストを送付し、個別に受診状況の確認を実施すること

とした。改定した受診表および聞き取り調査より、陽性者の受診状況について実態調査を行う。

C. 研究結果

① 受検啓発の効果検証

山口県（下関市を除く）における肝炎ウイルス無料検査の受検者数は 2012 年 7543 人、2013 年 7519 人、2014 年 8719 人、2015 年 7810 人、2016 年 7803 人、2017 年 7931 人、2018 年 7215 人、2019 年（4-8 月）2640 人であった（図 1）。2014 年以降検査数は増加し、維持している。また検査における陽性者数は 2012 年 HBs 抗原陽性 38 人、HCV 抗体陽性 67 人、2013 年 HBs 抗原陽性 37 人、HCV 抗体陽性 57 人、2014 年 HBs 抗原陽性 58 人、HCV 抗体陽性 67 人、2015 年 HBs 抗原陽性 43 人、HCV 抗体陽性 56 人、2016 年 HBs 抗原陽性 38 人、HCV 抗体陽性 49 人、2017 年 HBs 抗原陽性 37 人、HCV 抗体陽性 29 人、2018 年 HBs 抗原陽性 27 人、HCV 抗体陽性 30 人、2019 年（4-8 月）HBs 抗原陽性 12 人、HCV 抗体陽性 12 人であり、2017 年以降陽性率は低下した。

図 1 特定感染症事業における肝炎ウイルス検査数の推移と陽性者数の推移



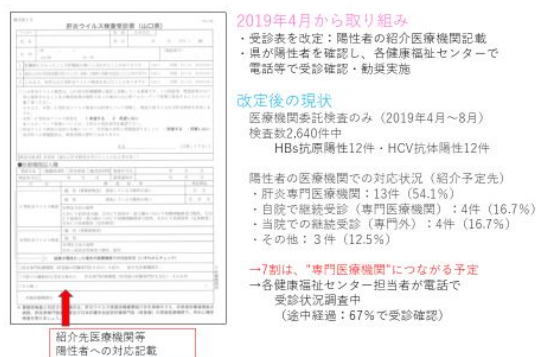
② 受診状況の実態と効率的なフォローアップ方法の確立

山口県では受検時にフォローアップ事業への同意取得を実施しているが、検査陽性者のフォローアップ同意率は 2016 年度 87.1%、2017 年度 86.4%と高率であることが確認された。あった。一方で、2018 年に

各健康福祉センターにおけるフォローアップの実態について聞き取り調査を行ったところ、各支所での対応が異なり、決まった対応がなく、フォローアップは十分に行えていない現状が判明した。そこで 2018 年から県と協議を重ね、2019 年からフォローアップ体制を見直した。具体的には、研究班から全国の地方公共団体から受検票を提供することで、フォローアップ同意のみならず、陽性者の受診状況を検査施行医が記載する欄を追加する案を作成した（図 2）。本改訂版の受診票を研究班が構成、10 万部印刷することで 2019 年 4 月より導入、各地域の健康福祉センター担当者が陽性者に対し電話等で受診勧奨を行うこととした。

2019 年 4 月から 8 月における委託医療機関での肝炎ウイルス無料検査実施数は 2641 件であり、陽性者は 25 人（HBs 抗原陽性 12 人、HCV 抗体陽性 13 人）であった。受診票に記載されている対応状況として、16 件（64%）が専門医療機関紹介、2 件（8%）が肝臓専門医であるクリニックで継続精査、4 件（16%）が非専門医であるクリニックで継続精査、その他 3 件（12%）であり、約 70% が専門医受診につながる予定となっていた。各健康福祉センター担当者による電話等での聞き取り調査の結果、陽性者の 52%（HBV38.5%、HCV61.5%）がその後医療機関を受診していた。

図 2 特定感染症事業における肝炎ウイルス無料検査受診票とフォローアップの現状



D. 考察

山口県では、拠点病院と行政、さらには肝炎医療コーディネーターが連携して肝炎ウイルス無料検査の受検啓発活動を継続してきた。結果、2014年以降、受検数は増加・維持しており、行政だけでなく、拠点病院を中心とした医療従事者も連携して啓発活動を継続することは有用であると考えた。本事業における肝炎ウイルス検査陽性率は2017年以降減少しており、ある程度県内で陽性者の掘り起こしが進んだ結果であると推測している。

肝炎ウイルス検査陽性者に対するフォローアップについては、山口県では以前より受検時にフォローアップに対する同意取得を取得し、高率に同意取得は得られていたが、これまで十分なフォローアップが行えていなかった。2019年4月に受診票の改定を行い、対応状況の実態調査を行ったところ、陽性者の約70%が肝臓専門で精査を実施されていることが判明した。実際の県健康福祉センター担当者による陽性者への聞き取り調査では約50%が検査後医療機関を受診し、精査を受けていた。受診票改定によりフォローアップの実態が把握できたとともに、検査陽性者の多くがその後、医療機関を受診していることを把握できた意義は大きい。一方で、一部で未受診者がいることも判明した。健康福祉センター担当者による個別勧奨（聞き取り調査）後、無受診者が受診につながったか、今後追跡調査を実施していきたい。

E. 結論

行政と拠点病院が一体となった肝炎ウイルス無料検査の受検啓発活動は効果的であり、継続していく意義がある。

陽性者に対するフォローアップについては、検査前同意で、高率にフォローアップ同意が得られる。フォローアップの重要性を県担当者と共有することで、効率的にフ

ォローアップは可能である。また、多くの検査陽性者は、適切に医療機関を受診している。

F. 政策提言および実務活動

分担研究者が中心となり県と、拠点病院、肝炎医療コーディネーターが協力し、受検啓発活動を実施することで、特定感染症事業における肝炎ウイルス無料検査の検査数を増加することができた。現在、全国で肝炎医療コーディネーターが養成され、受検啓発活動などを実施しているが、継続可能で効果的な受検啓発には行政担当者の理解と協力が不可欠であり、行政と拠点病院の連携が重要である。肝炎検査の受診票の改定により、効率的なフォローアップ体制の構築が行えた。その結果、陽性者の多くが適切に医療機関を受診していることが確認可能であった。特定感染症事業における肝炎ウイルス検査陽性者に対するフォローアップは行政の業務であるが、効率的なフォローアップを実施するためには拠点病院や専門医療機関の協力が必要と本研究を通じて考えられた。陽性者の更なる受診率向上にむけ、これからも積極的に県と協力して陽性者の受診率向上に努めていく。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

- 1) 日高 勲、宮下 洋一、坂井田 功
「県と拠点病院が一体となって行う肝炎ウイルス無料検査受検啓発と陽性者フォローアップ」
肝臓 60 suppl(1), A89. 2019
- 2) 増井 美由紀、結城 美重、日高 勲、坂井田 功
「山口県にける肝炎医療コーディネーター活動の状況」
肝臓 60 suppl(1), A85. 2019

3. その他

資材

- ＊ 肝炎ウイルス検査受検票(山口県) H31.4版(別添え)

啓発活動

- ＊ 日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターの役割～山口県における活動の紹介～」奈良県肝炎医療コーディネーター研修会
令和元年7月30日
主催：日本肝臓学会、
奈良県立医科大学附属病院
- ＊ 日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターの役割～山口県肝疾患コーディネーターの活動紹介～」令和元年度香川県肝炎医療コーディネーター養成研修会
令和元年8月4日
主催：香川県、香川県立中央病院
- ＊ 日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターとは」令和元年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会
令和元年10月6日
主催：山口県、山口大学医学部附属病院
- ＊ 日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターとは～山口県肝疾患コーディネーターの取り組み～」令和元年度北海道肝炎医療コーディネーター研修会
令和元年10月26日
主催：北海道、北海道大学病院
- ＊ 日高 勲：講演「肝炎撲滅を目指した山口県での取り組み～肝炎医療コーディネーターとともに」令和元年度医療従事者研修会 令和2年2月20日
主催：島根大学医学部附属病院

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし

3. その他

なし